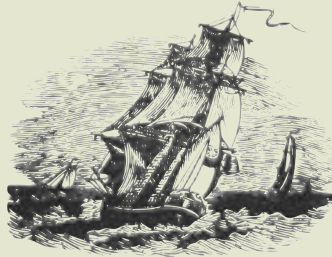


羅針盤



教科書に載っていない秘伝を会得しましょう

常深 祐一郎

Yuichiro Tsunemi

東京大学医学部皮膚科

皮膚科へようこそ！ 今月号は皮膚科の新人の先生むけの企画です。皮膚科の診療をはじめて、感じられている頃と思いますが、皮膚科には独特の習慣・手技があります。写真撮影，顕微鏡，病理組織……等々，ちょっと困ることも多いはずですが，なかなか教科書には載っていません。伝統技能のように先輩から後輩に受け継がれているのです。

私事で恐縮ですが，写真は私の趣味（仕事？）である釣りのワンシーンです。釣り

では同じ船に乗って，ほとんど同じ道具と仕掛けで，同じエサで釣っていても，隣の人だけ釣れることは珍しくありません。そんな時，自分で工夫することも大切ですが，名人から一言教えてもらうだけで，ずいぶんちがってくるものです。それは大抵の場合ほんのちょっとしたことなのですが，それが釣果に大きく影響するのです。皮膚科も同様だと思います。先輩からコツを1つ教えてもらうだけで，一気に進歩する場面がたくさんあります。

この号はそのような内容を工夫を凝らして解説しようという試みです。わかりやすく図や写真を多用しました。また，よく陥りがちな間違いや，悪い例を提示して，なぜよくないのか，どこがまずいのか，どう修正すればよいのかも示しました。普通の教科書とちがいで，事例に近いので，実感しやすいでしょう。

さらに，医師としての基本である身だしなみや，患者



さんへの接遇態度，問診の仕方，カルテの書き方，皮疹の記載方法なども大ベテランの先生方から伝授して頂きました。なかなか教えて頂ける機会の少ないことですので，熟読して頂きたいと思います。

よく「皮膚科は楽そうだね」といわれることがあります，これは大きな間違いです。しっかりとやれば決して「楽」ではないです。「楽」ではないですが，基本をしっかりと習得すれば，とても「楽しい」

世界です。初めのうちは現症や組織をどうみて，どう表現したらよいか難しいし，疾患名もごちゃごちゃしていてよく分からないし，なかなか大変な時期があることは確かです。ここでめげずにきちんと勉強し，基礎をしっかりと固め，次にそれに肉付けをしていけば，自分の中に「皮膚科学」が体系だってつくられます。基礎が適当だと，その上にろくなものは構築できません。建築と一緒です。きちんと体系だって頭に入れば，加速度的に皮膚科が分かるようになり，おもしろくなり，そして楽しめるようになります。是非そうやっていただきたいと思います。

皮膚科を楽しんでいる一人として，この号を企画するにあたり，知恵を絞ったつもりです。本号が，新人の先生方の診療，勉強の役に立ち，皮膚科が楽しくなることに貢献できれば幸いです。